

地域医療早期体験実習

【単位数:0.5単位, 授業20コマ】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

宮田靖志 教授(特任)(地域総合診療医学寄附講座)

2 教育目標

(1) **ねらい**(I-1-c, I-2-c, I-3-c, I-4-c, I-5-c, I-6-c, I-8-c, I-11-c, I-12-c, I-13-c, II-1-b, II-2-c, II-3-c, II-4-c, II-5-c, II-6-c, II-8-b, III-6-c, III-7-c, III-9-c, IV-1-c, IV-2-c, IV-6-c, IV-9-b, V-1-b, V-2-b, V-3-b, V-4-b, V-5-b)

- ① コアコンピテンスの”プロフェッショナリズム”, “地域医療への貢献”の理解のため, 一般の地域医療機関における医療実践を体験し, 地域医療を実践する医療専門職の仕事を具体的にイメージできるようになる。
- ② 大学病院以外の一般の地域医療機関においてどのような医療が実践されているのか, 医師及びその他の医療専門職の業務を体験し, クリニカル・クラークシップでの地域医療への準備とすると共に, 地域医療への学修意欲向上の契機とする。

(2) 学修目標

- ① 医師の日々の臨床業務で求められる能力を説明できる。
- ② 医療実践に関わる医師以外の医療専門職の業務を説明できる。
- ③ 医療専門職者の多職種連携の具体について説明できる。
- ④ 実習の体験を振り返って何を学んだのか, 分析することができる。
- ⑤ 実習の体験から今後の学習課題を設定することができる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績 対象	割合	コメント
ポートフォリオ	○	100%	事前学習課題, 事後学習課題, ポートフォリオにて成績判定する。 期日(7/28 17:00)までにポートフォリオが提出 されない場合は, 成績判定できないため, 単位が与えられない。
実習先指導医からの評価	○	—	実習先から不可と評価された場合, 実習先指導医からその理由を得て, 不可評価が妥当かを判断する。その上で, 科目責任者が不可評価を妥当と判断した場合は, ポートフォリオの評価に関わらず不可とし, 以後の判断は進級判定会議に委ねる。

出席: 実習を欠席してはならない。

(2) 合格基準

実習参加状況・レポート内容により, 合格, 不合格の判定をする。

評価の詳細: 優・良・可・不可とする。(優:100点, 可:60点, 不可)

優; ポートフォリオフォーマットが守られている。レポートの考察に深みがある。

(修正の依頼なし)

良; ポートフォリオのフォーマットが守られていない(修正のため再提出となった)。

レポートの記載に実際に体験した内容が記載されていない(修正のため再提出となった)

不可; 提出期限が守られていない。

修正後の再提出でも指定された基準を守れていない。

実習施設からの評価で問題点を指摘されている。

評価方法：

実習すべて(事前・事後講義を含む)に参加すること。

ポートフォリオの提出期限が守られていること。

ポートフォリオのフォーマットが守られていること。

ポートフォリオの評価の方法： 自分自身の考えを自分自身の言葉で記載していること。

一般的な教科書的記載のみの場合は不可とする。

実習先からの評価で不可となった場合は、その内容を精査し妥当と判断したら、不可とする。

★ポートフォリオの作成はパソコンで行うのが良い。iPadで作成したものはパソコンで開いたときにWORDファイルのフォーマットが変わってしまうことがある。ipad等で作成した場合は、必ずパソコンで作成物を確認すること。

(3) 再試験・再評価の方法

① 実習先からの評価が不可の場合、不合格。再実習は実施しない。

以後の判断は進級判定会議に委ねる。

② ポートフォリオ再提出後も基準が守られていないものは再々提出を求め、さらに特別な課題を与える。

③ 実習に参加できなかった場合は、不足日数分の追加実習を行う。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

提出されたポートフォリオについて、学年全体へ総括的なフィードバックをメールにて行う。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
地域医療学入門	日本医学教育学会 地域医療教育委員会監修	診断と治療社	地域医療全般について学生向けに解説されている。
日本プライマリ・ケア連合学会基本研修ハンドブック 改訂第2版	日本プライマリ・ケア連合学会	南山堂	総合診療実践のための基本的内容が網羅されている。
新・総合診療医学 家庭医療学編 第2版	藤沼康樹編集	カイ書林	家庭医療の実践方法が広くまとめられている。

6 準備学習(予習・復習)

実習の概要、ポートフォリオの資料をあらかじめ読んでおき、実習に備える(1日あたり約1時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

実習前： 実習の意義、学習目標に関する講義を実施し、その後、自己学習、グループ学習にて実習のための知識整理を行う。

実習後： 実習で学んだことをまとめ、グループ内、全体で発表し議論しながらさらに学びを深める。

(2) 講義の内容

地域の医療機関で医療実践するために医師に求められる知識、技能、態度及び多職種連携の基本的知識について解説する。また、ポートフォリオ作成の意義とその方法について解説する。